

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立手鎌小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0003

福岡県大牟田市大字唐船395番地

E-mail tegama-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/tegama-es/index.html

幼児児童生徒数 男子 225名 女子 181名 合計 406名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「大地に生きる手鎌 わたしたちがつなぐ農業と食文化」を活動テーマとして、ESDを健康で生きがいのあるくらしとまちづくりのための教育と捉え、ESDの実践を通して、地域を愛し、地域のために共に行動する力の育成を目標とした。

具体的には、地域とのかかわりを深める体験活動を柱に、①食への関心を深め、健康な生活への実践力を育てる学習、②地域とつながる農業体験、③地域の食文化体験を行うようにした。

① 食への関心を深め、健康な生活への実践力を育てる学習

学級活動、体育科、家庭科において栄養教諭や養護教諭の専門性を生かす学習指導を全学年で行った。各学年の児童の実態に応じて指導内容を工夫し、子ども達が食物の働きを理解し、食品を選択する力や食生活を改善する力を付け、学んだことを健康な生活づくりに生かすことができるようにした。

② 地域とつながる農業体験

【2年生「子ども朝市をひらこう」】

2年生の子ども達は、育てた野菜をお世話になっている子ども見守り隊の方に食べてもらいたいと考え、「子ども朝市」を開いた。子ども朝市は、学校と地域をつなぐ活動として、その後、他の学年にも広がっていき、子ども達が地域に意識を向け、地域の一員としての自覚をもつ場となった。

【4年生「共同農園をつくろう」】

4年生の子ども達は、無農薬での白菜作りに挑戦し、害虫の被害を経験する。そこで、地域で無農薬・低農薬で野菜づくりをされている方に学校に来ていただいた。子ども達はこの方から害虫駆除の方法を聞き、いろいろと試した。試した方法を3年生にも教えた。共同農園は、子ども達が地域の方と触れ合い、尊敬・感謝の心をもつとともに、学年間の交流の場となっている。

③ 地域の食文化体験

【5年生「守り、広げよう、伝統の食文化『黒崎・串だご』】

「黒崎・串だご」は、干拓の仕事や農作業の合間に食べられていた食べ物である。串だごづくりを体験し、串だごが地域の皆さんによって大切に守り継がれてきたことを知った子ども達は、自分達がこの伝統の食文化を守り継いでいかなければならないと考えた。子ども達は、串だごをその背景にある干拓の歴史と農業の発達も含めて、人々に広く知らせようと公民館での活動を行った。



① 【栄養教諭の専門性を生かす学習指導】



② 【「子ども朝市」】



③ 【共同農園】



④ 【公民館での活動】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|--------------------------------------|--|--|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|-----------------|
| ネスレヘルシーキッズプログラム |
|-----------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

児童の実態、校区の実態をもとに、食育の6観点とESDで育てたい資質・能力を考え合わせて目指す児童像を設定し、生活科・体育科・学級活動・総合的な学習を関連付けた教科等横断的なカリキュラムを編成し、地域の人的・物的な教育資源を生かす指導を展開している。

地域とつながる農業体験や地域の食文化体験を通して、地域のために共に行動する子どもを育てるため、学習目的や動機付けの工夫、体験をもとに考えを深め、行動化を促すための指導の工夫などの点からよりよい指導を目指している。指導の見直しをESDカレンダーや単元計画に反映させ、引き継ぐようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール担当者を決めて、担当者が中心となってESD推進部会を運営し、ESDカレンダーの見直しを行ったり、研修会を実施したりしている。

各学年の担任が協力して農業体験や食文化体験の準備や実施をし、教頭が地域の人材を招致し、体験活動にもとづく豊かな学びが実現できるようにしている。

栄養教諭や養護教諭の専門性を生かし、学級担任とともに健康な生活への実践力を育てる指導のための体制をつくっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価に「ESDの推進、カリキュラムへの反映」「地域の方の学校教育への理解・協力を得る教育活動の工夫」「食育の推進」などの評価指標を位置付けて自己評価を行い、学校関係者評価委員からの評価を受けた。取組が進んでいることを評価していただき、学校と保護者・地域との連携をより一層進めてもらいたいとの意見をいただいた。学校として保護者や地域の人々の理解協力を得るための広報活動に今後一層力を入れていく必要があると考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「大牟田市のユネスコスクール子どもサミット」で、地域とつながる食育の取組と子どもの学びの成果を学校関係者や市民に向けて発信した。また、「食育フェア」を開催し、保護者・校区の人々に学校の取組を知らせた。学校のホームページでは、随時、各学年の取組を紹介している。こうした発信により、本校のユネスコスクールとしての活動の意義や特色が広く知られるようになり、持続可能な社会づくりに貢献する食育のあり方を提案できていると考える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

大牟田市ESDコンソーシアムによる研修会への積極的に進め、ASP UniveNetの大学の先生の講話や指導を聞く機会を得ている。校区まちづくり協議会から「子ども朝市」「食育フェア」を広報してもらったり、地区公民館の文化祭に参加して学習成果を発表したりするなど、地域の団体・機関とのネットワークを生かしている。ネスレヘルシーキッズプログラムの無料教材を導入するなど企業からの支援を受けている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

大牟田市ESDコンソーシアムを通して、学校間交流を進めている。学校間交流では、北海道、東京の小学校とカリキュラムや活動の様子等を交換し、食育をテーマとするそれぞれの特色ある取組を紹介し合った。また、大牟田市ユネスコスクール子どもサミットに参加し、市内外の学校と交流した。ユネスコスクール担当者会においても、各学校の取組の交流が進んでいる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

児童が、地域の歴史・産業・文化に関心をもち、地域の開発につくした先人や地域の人々への尊敬・感謝の気持ちを深め、共に地域のために行動しようとする気持ちをもった。

教師が、子どもの主体的な学びの姿をとらえ、校区の特色を生かしたカリキュラムのよさを感じ取り、よりよい実践への意欲をもった。

ユネスコスクールの活動についての保護者・地域の理解が進み、より積極的に協力する姿勢を示した。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「大地に生きる手鎌 わたしたちがつなぐ農業と食文化」を活動テーマとして、ESDを健康で生きがいのある暮らしとまちづくりのための教育と捉え、ESDの実践を通して、地域を愛し、地域のために共に行動する力の育成を目指す。そのために、地域とのかかわりを深める体験活動を柱に、①食への関心を深め、健康な生活への実践力を育てる学習、②地域とつながる農業体験、③地域の食文化体験、④情報の発信、を行う。

単元構成について、学習目的や動機付けの工夫、体験をもとに考えを深め、行動化を促すための指導の工夫などの点から本年度見直したことを生かし、児童が学校・地域の中で主体的に課題を見付け、課題解決のために力を合わせて取り組む活動を促すようにする。

ネスレヘルシーキッズプログラムを全学年で導入し、栄養と運動の面から健康な生活への実践力を高める指導の充実を図る。

取組の発表や情報の発信に力を入れ、ユネスコスクールとしての活動の意義や価値を人々に広げていく。